

みんなに聞いてほしいこと

みんなに聞いてほしいこと

まき

まきさんは、五月に転校してきました。

転校初日から「まきが悪口をいつてきました。」「まきがいやなことをしてきました。」などの苦情が絶えませんでした。

みんなは面と向かって言い返さないのですが、まきさんのいないところで文句を言いつようになつてきました。

でも、まきさんは、ほんとうはみんなとは友だちになりたかったのです。転校をくり返してきて、一年と同じ学校にいたことがないので、友だちとどうつきあつていいのかわからなかつたのです。それで、ついつい手や口が出てしまうのです。

それに気づいた担任の先生はまきさんに「心の中のもやもやした」思いを書いてみないかと話しました。まきさんはあつさりうなづきました。

それから、まきさんは、放課後、残つて作文を書きました。くわしく書けていないところは、先生と話し合ながら仕上げていきました。

二日後、作文は仕上りました。先生がまきさんに「ぐるぐるうさん」と書つと、まきさんは満足そうに「先生、ありがと」言い、笑顔で帰つていきました。

この前の理科の時間、誕生調べの発表がありました。生まれた時の体重や誕生日を言つていきました。先生の子どもが逆子になつた話や山川さんの首にへそのおがまきついて、後ちょっとで生まれてこなかつたかもしれない話などを聞きました。私は誕生調べができませんでした。わけは母子手帳がないからです。

小学二年の時、お父さんとお母さんが離婚して、私はお父さんについていきました。お母さんには、電話もできなし、遠くにいるので会うこともできません。だから、母子手帳がないし、お母さんにインタビューもできませんでした。

みんなの誕生調べを聞いて、お母さんにインタビューできていいなと思いました。今、新しいお母さんとお姉ちゃんと一緒に家に住んでいますが、お姉ちゃんとけんかした時、何かさびしくなります。

私は友だちと仲よくできません。私はちょっととしたことですぐおこつてしまふからです。なるべくおこらないように

しても、おこつてしまします。自分ではおこるところをおそうと思つてゐるけど、どうしてもおこつてしまします。

だから、仲よくする友だちがいません。

私は、幼稚園から今まで十回以上転校しています。せつかく仲よくなつても、すぐはなればなれになつてしましました。だから、この小学校で仲のいい友だちをつくりたいです。

道徳の時間、まきさんはみんなの前でこの作文を読みました。みんなは静かに聞いていました。読み終わると、みんなはいろんな感想を出してくれました。

さやかさん次のように感想をつづりました。

私は正直言つてちょっとまきが苦手な感じでしゃべったり、いろいろ何かしたりしなかつたけど、今日の時間でまきがこんなことをなやんだりつらかつたりしてたのかと初めて知りました。

私には弟がいます。よくけんかをしたりして、すぐ何かおこつてしまします。まきみたいにいろいろなおしたいことがあります。でも、なかなかおせません。だから、

そういうことならなんとなく分かる気がします。お父さんやお母さんが離婚してしまったことは知りませんでした。なかなかそういうことは分かつてあげられないけど、同じようなところはあつたから、がんばつてやつていこうね。

帰りの会でまきさんは、

「私が発表したのを聞いてくれた人、それを聞いて感想を言つてくれた人、ありがとうございました。みんなに発表してもらつてとてもうれしかつたです。みんなにやみを打ち明けたので、少しはすつきりしました。私の話を聞いてくれたみんな、ほんとうにありがとうございました。」



みんなに聞いてほしいこと

(小学校・高学年)

A 教材設定の理由

本当は友だちを求めていたのに、素直に表せなくて逆に周りの子につらくなれる子はどこにいる。そうした子の多くは、「乱暴な子」「わがままな子」と決めつけられ、見放されていく。そんな一面的な見方を脱して、子どもの生活の背景を見つめ、その子のさびしさに共感し、周りの子とつなげたいという教師がいて、その子は自分の生活の抱える生活の悲しさ、苦しさ、仲間のいない寂しさを語り出したり、綴り出したりする。

そして、その子を励まし、その子がありのままの思いをみんなの前で語ることによって、みんなはいかに自分たちの見方が表面的、一面的であつたかを知らされ、その子の見方を変えていく。

また、彼らが語り、綴りはじめるこことによって、周りの子どもたちの課題も照らし出され、自分の生活を再度見つめ直すことになる。そして、互いの思いを交わし、共感し合うことで、子どもたちは新しい価値観でより深いところでつながつていけるのである。

そのような作業のくり返しによって、支え励まし合う集団を育てていきたい。

B 教材の解説

本教材は、県内の小学校六年生のクラスで、自らの生活を綴り、それを伝えあうことによって、つなぎをつくりたいという取り組みの一つから生まれた。

五月下旬に転入してきたまきさんは友だちを求めながらも、相次ぐ転校のために人間関係づくりが苦手で、自分の生活の辛さもだれにも

分かつてもられないこともあって、周りの子に対して、悪口を言つたり、ときには暴力を振るつたりして、ますます関係を悪くしていた。そんな彼女に対し、周りの子どもたちは面と向かつては言わないままでも、次第にうとましく思い、陰口をたたくようになつていつた。

そんなまきさんに対する担任は以前受け持つた子が自分の思いを綴ることによって、自分を見つめ直し、さらにみんなの前で語ることによつて、つながりを深めつていった事実をまきさんに話し、自分の思いを綴ることを勧めた。それに応えてまきさんは放課後三日間かけて、自分の思いを綴つた。

そして、道徳の時間、教材にある作文をみんなの前で読んだ。

真摯に語るまきさんの姿に、クラスのみんなも共感し、まきさんへの見方を少しずつ変えていく。まきさんも自分の思いをしつかり受け止めてくれた仲間を信頼するようになり、糺余曲折はあるもののみんなの中に積極的に入つていくようになる。

一方、まきさんと同じようにつらい思いを抱えていたまきさんは、まきさんの作文とその変容に元気づけられ、言えなかつたつらさをみんなの前で語り始める。それに対して、まきさんは自分自身の体験と重ねながら、次のように語つてまきみを励ます。

まきみへ

まき

まきも同じことを紹介したよね。まきみはお父さんがいないけど、がんばつて！まきはお母さんはいないよ。血がつながつていらない姉き＆お母さんならいるけど。血がつながつていないけど、やさしいよ！だけど、おこられたらこわい。まきみ、お母さんにきつくおこられるでしょ。それは、ほんとうの子どもだからだよ。それに好きじゃなかつたら育ててくれないよ。愛情があるからこわいんだよ。だから、これからもがんばつてね！なんでも相談して。まきは弱気

になるかもしないけど。

同和教育がこれまで大切にしてきた綴り、伝え、つなぐ取り組みを本教材を手掛りに地道に進めてほしい。

C 教材の使用にあたって

①無理に自分の思いや悩みをみんなの前で語らせたり、受け止めてくれる仲間がいないのに語らせるのは逆効果となることもある。語る本人と十分話し込むとともに、真剣に受け止めてくれる仲間づくり・場づくりを日ごろから心がけ、本人が語つてよかつたと思えるようにしたい。

②互いの思いを出し合って終わりなのではなく、その後の取り組みが重要である。互いのつらさを受け止め、励まし合う学級集団づくりを年間を通して継続的に進めてほしい。

D 参考資料

第五二次全國教研人權教育分科会報告

「綴り、伝え、つなぐとりくみから見えてきたもの」

北市 康徳（加賀市立片山津小学校・当時）

E 授業の展開例

教師の基本発問・助言	学習内容・支援の要領
<p>1 導入</p> <p>①みんなさんは悩みやつらいことがありますか。また、悩みやつらいことを相談する人はいますか。</p>	<p>①無理に出させるのではなく、聞いてほしくてもなかなか言えなかつたことがなかつたか、心に留めておけばよい。</p>
<p>2 展開</p> <p>②教材文を読む。</p>	<p>②教師の範読の後に指名読みさせる。まきさんの作文は特に気持ちを込めてていねいに読みたい。</p> <p>③まきさんがみんなにどんなふうに見られたのか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乱暴な子、わがままな子 <p>・面と向かって言わず、陰口を言つてきた。</p> <p>④まきさんの立場に立つてもう一度作文を読み、まきさんの気持ちについて深く考えさせる。特に最後の段落のまきさんの友だちを求める思いに注目させたい。</p> <p>⑤まきさんの作文を聞いて、みんなはまきさんの見方をどんなふうに変えましたか。</p> <p>⑥まきさんはどうして帰りの会でみんなに向かつて「ありがとう」と言つたのでしょうか。</p>
<p>3 まとめ</p> <p>⑦みなさんも学級のみんなに聞いてほしいことはありますか。書いてみましょう。</p>	<p>⑦いきなり学級のみんなに語ることを前提にしては書けない子もいるだろう。そんなときは無理に書かせるのではなく、悩んでいることをまずは担任に向かつて書くというのでもよい。</p>